

## ふれあい喫茶の紹介



トイレットペーパーの芯を使った鯉のぼり作り(総合会館)

「最近外出していないな」「会話をするのが少なくなったな」など感じることはないですか。

年を重ねると、慣れた生活は送れるのですが、新しい出会いのための行動を起こす事には勇気がいりますね。

しかし、私たちの脳はいつも心地よい刺激を求めています。どんなことが良い刺激かというと、生まれ授かった五感(見ること・聞くこと・匂うこと・味わうこと・触ることを刺激することです。

例えば、散歩に出かけて、道端で季節の音(ツバメのさえずりやカエルの鳴き声)を聞いただけ

で頭の中にその場面がイメージされます。また、人と出会い、会話をするだけで脳細胞はフル回転で動き出します。家の中では体験できないことが、外出することで自然に体験でき、脳は喜んでいるのです。

そんな出会いの場として町では、同じ地域に住んでいる元気サポーターさんと一緒に「ふれあい喫茶」を毎月1回、福祉会館・福祉健康センター・総合会館で開催し、お茶を飲みながらおしゃべりするなど楽しいひとときをお届けしています。

楽しい会話や笑顔は、脳を活発に動かし、物忘れなどの予防に最適です。ぜひ、皆さんの参加お待ちしております。

月日(曜)	時間	場所	参加費	
6月	10日(金)	10:00	福祉会館	100円
	13日(月)	〃	総合会館	
	14日(火)	11:30	福祉健康センター	

【問合先】福祉健康課

### かさまつの民話『昔むかし』

#### 金池の主②

ある日、与助はおかあにつれられて、あしのおい茂った道の奥の大きな池にきた。そこが金池であった。ざるに入れた餅をにぎって、「ええか。このもちを力いっぱい投げるんじやぞ。」

「投げたら振りむかずに、いちもくさんに帰っていくんやぞ。ええなあ。そうせんと、おまえの歯は治らんじや。」

「うん。おれ、投げたら走って帰るもん…。おっかあ。」

与助は、プクプクとあわをふく水の上に白い餅をポトーン、ポトーンと投げた。そのたびに水底に黒く動くものがあった。見ずにいちもくさんに帰った。

「あれ、おまえ、ぞうりもはかずに帰ってきたのか。まあええ。それでええ。」

…家へ帰っても、いっこうに与助の歯痛は止

まらなかった。

「おかあ、まだ歯いたいよ。いたいよ。」

「そうか。そんならこんどは、わしが連れてったるぞ。」

「手にいっぱい餅を持っていけよ。」

こんどはばあさまが、連れて行くことにした。

「ばあちゃん。ほんとに餅を投げるとおらの歯痛、治るんか。」

「うん、治るよ。隣の佐助さも、いたかった歯が治ったというからなあ。ばあちゃんもいっしょに投げるでついてこいよ。」

二回目の道は、草ぼうぼうの近道であった。こんどは、池のふちに小さな祠があった。青く澄んだ池の水は、いくつもあわをふき出し、大きな水藻が水にゆれていた。

「こりゃあ、早く投げ

んとたたるかも知れ

んぞ。与助、早く投

げる。早よう投げて

帰るんじや。」

(つづく)

